

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4071101473		
法人名	のみやま 有限会社		
事業所名	グループホーム おさ (2階)		
所在地	〒811-1313 福岡県福岡市南区日佐3丁目40番30号 Tel 092-588-5611		
自己評価作成日	平成28年06月29日	評価結果確定日	平成28年09月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一緒にいる喜びを感じられる家庭～地域・社会・スタッフ共に住む同志として～の理念のもと、「その人らしい生活」を考え、生活の支援をおこなっております。
 その人の生活リズム・馴染みある(入居して通い始めた)美容室へ出かけたり、外出行事で外出したり、気候の良いときには近隣の福岡女学園に散歩に出かけたり、「～行きたい」「～したい」「～食べたい」を、出来る限り実現できるように取りくんでおります。
 地域密着型サービスとして、地域方々や、校区内の事業所と協力し合い、徘徊ネットワーク事業所110番を立ち上げたり、地域カフェへの協力、活動費の援助を行いながら地域の活動支援に力を入れており、今年には校区で始めての徘徊模擬訓練を実施する予定で活動しています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 北九州シーダブル協会		
所在地	福岡県北九州市小倉北区真鶴2丁目5番27号 Tel 093-582-0294		
訪問調査日	平成28年08月30日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	誰もが目にする事が出来るように壁に張り折に触れて確認しながら介護の基本となるよう又、地域の方々との交流を通して理念の共有、実践に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	全入居者が町内会に加入し、夏祭り等の地域行事に参加しているのを初め、町内会長、民生委員、他の事業所の方々にも訪問してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域中学生の職場体験を受け入れいる。家族、地域の事業所や住民の方の参加を得て認知症についての勉強会なども行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこで意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では評価に対する取り組みや日々の介護活動の状況を報告し家族や地域住民、事業所より意見や要望等をもらい可能な限りその場で論議している。職員間での話し合いが必要な場合、次回の会議で経過や改善内容を報告してサービスの向上に努めている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	事務的な手続き以外でも不明な点があればその都度関係機関に確認し、アドバイスをもらっている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会を設置、外部・内部研修を行い習得したことを共有し日々の介護での身体拘束が行われていないか等をカンファやミーティング時に見直し確認を行うようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し全体会議で研修報告を行い全職員で身体拘束や虐待のない介護に常に認識しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見人制度を利用している入居者があり、外部研修や内部研修を通して御家族と共に理解が深められるよう学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に基づき事業者としての対応可能な範囲や医療連携体制、看取りなど詳しく説明を行い理解・納得・同意を得た上で契約をしている。変更等が生じた時も文書通知し細く説明も行いながら同意して頂いている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員や管理者に意見や要望を話してもらえる関係作りを行っている。意見や要望には管理者が責任持って対応し改善・報告も出来る限り速やかに行っている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議や随時のミーティング時に意見や提案などを話し合う機会を設けている。日常的なコミュニケーションも大切にしており、個別に話す機会も設けている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々にスキルアップが出来るように希望休を取り入れ研修参加を奨励し、やりがいのある、働きやすい職場を目指し環境の整備を行っている。		
13	9	○人権尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用においては性別・年齢を理由に採用の対象から排除しないようにしている。多くの気付き、温かな対応・笑顔に繋がるような介護支援が出来る事を優先している。職員は個々の個性・能力を発揮し、自己実現の場として勤務出来る雰囲気、事務所作りに配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部・内部研修で啓発活動を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	福岡県介護保険事業者研修予定表を元にスタッフの参加希望を考慮しながら外部研修に参加できるよう機会を確保しスキルアップのため資格修得にも援助している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は南区の「支え合いの会」に参加し室の向上、情報収集に努めている。又、スタッフも研修や定期的な事業所でのぎょうじにや他事行所にも参加を呼びかけ交流する機会を作り、ネットワークづくりを行っている。お互いの職種が交流する事で質の向上に努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	CMが情報収集行い事前面接に出向き生活状況の把握に努め、体験入居して頂くことで顔を覚えてもらうことから初め、本人が訴えやすい人間関係を作り、不安や困りごと等傾聴しながら他の入居者やスタッフの環境になじみ安心して入居できるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に希望する暮らし、施設生活での不安などを伺い家族の思いを受け止め、話し合いを密にし信頼関係を築き、家族と共に本人様を支える関係作りに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族の要望を伺い、必要な支援内容、その他利用出来るサービスについても話し合いアセスメントし、個々に合った支援を行い、早急な対応が必要な肩には可能な限り柔軟な対応をし他事行所との連携でサービスにつなげられるよう努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	個々に出来る事を依頼して得意分野での活躍の機会を作っている。又、一緒に家事を行ったり個別会話で家族同様に感じて頂けるようお互いが助け合い、協力できる関係を築くよう努めている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	通院は出来る限り家族に依頼したり、行事等に参加して頂くよう共に支えていく関係を大事にしている。面会時や毎月の通信で日々の状況や状態を伝え必要な連絡事項はその都度報告するようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の知人や近所の方が面会に来られた際話せる場所を提供し、いつでも来て頂けるようお願いしている。本人の長年築いてきた人間関係や地域との関係継続が出来るよう地域行事に参加し、馴染みの場所や人と過ごせる時間を作るよう支援している。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士でお手伝いしながら話されたりお互い声を掛け合って助け合われたり独りである方に話かけられたり気にかけている。お互いの配慮があるのでよい関係を継続出来るようスタッフが調整役になり支えあえる関係作りに努めている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後は入居施設を訪問し経過や状況を伺う等連絡を取っている。受け入れ先へは細かな状況、情報を提供し転入によるダメージ減少に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、御家族、CMから情報収集すると共にその方の今までの生活習慣や思い、意向の把握を心掛け、家族の協力を得ながらその人本位のケアに努めている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、御家族、主治医に話を聞き、その人らしい生活が出来よう健康状態を含め、生活状況や環境を把握出来るだけなじみの生活環境に近づけるよう支援している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者個々の生活リズム、心身状況を把握しそれぞれの生活の違いを当たり前とし支援している。理解し実行出来ることや趣味の継続により意欲的に生活出来るよう個別レクを行う支援をしている。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向、御家族、主治医の意見を反映し達成状況を確認しながらあつたっている。又、本人の状況変化に合わせて介護計画の見直しをその都度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様ごとに日頃の生活状況を記録し、日常とは異なる言葉や会話、動作など記録している。気になる事やいつもと違うなど申し送りにて他職員とも情報共有してケアプランの見直しに生かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の外出や受診など御家族からの要望に沿って対応するように心がけています。その時々状況に対応出来るようにスタッフ間で人員調整を行ったり随時連絡とっています。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	買物に地域のスーパーへ一緒に行き、馴染みのお店へ寄って会話を楽しんで頂いています。地域や老人会、町内会のお祭りにも参加して楽しく生活出来るよう努めています。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人や御家族の希望される医療機関がかかりつけ医に出来るように調整し、眼科や皮膚科等の疾患受診に於いてもかかりつけ医と相談しながら対応しています。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	フロアには看護師不在にてかかりつけ病院の看護師長に昼夜問わず連絡を取り入居者の変化やそれに対する医療面での相談を行い早期の受診が行えるようになっています。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院する際は入居者の日頃の生活状況やアセスメントの情報を提供し安心して治療出来るように努めています。早期退院を目標にカンファレンスに参加して退院後の留意点や注意事項の助言を頂いています。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ターミナルが必要かどうかを含めご家族が来苑された際に随時意志確認しています。主治医を含めて関係医療機関とも相談してホームで出来る事、続けられる事、限界点を明らかにして望まれる生活を継続出来るよう努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	地域の講習会や消防署主催、県主催の講習会等の研修を全てのスタッフが受講して応急手当や急変の対応が出来るように努めています。		
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災訓練を消防署の指導を受けつつ、入居者の方々と一緒に行い、避難や消火器の使用方法など繰り返して訓練しています。又、地域の方々との日頃からの連絡会の際には災害時の協力をお願いしています。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に入居者を敬う気持ちを持ってお手伝いをお願いする際や終わった後に心からの感謝の言葉を伝えるようにしています。又、人生を省みてその方の誇りを傷付けないように心がけています。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	起床時の更衣する洋服を選んで頂いたり、窓から外を見ている様子からお散歩の声かけをして何がしたいのかを伺うようにしています。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食の時間は決まっていますが、起床の声かけに「まだ寝ていたい」等その日の体調に合わせてゆっくり起きて頂いたり、随時対応するように心がけています。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居されるまでの生活環境やリズム、美容室に行く、買物をされるお店が決まっているなども考えホームで毛染めしたり、馴染みの美容室へ送迎したりしています。季節ごと必要な際に衣類の相談を御家族にお願いしています。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	日頃の会話の中から今日食べたいと思っている物がないか伺ったり、希望があればお買い物に行き好みの食材で料理するようにしています。料理や入居者様の出来る内容の後片付けを行って頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個別に食事バランス、食事量をみながら提供している。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人一人に口腔ケアの声かけ誘導を行い、清潔に保つように口腔ケアを行っている。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を確認しながら間隔的にトイレ誘導や声かけを行っている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で確認し便秘時は水分補給を多めに取って頂くようにしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者の状況を見ながら入浴の声かけを行っている。拒否時は時間をおくなどし対応している。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の行動や状況をみながら休息や入眠の声かけを行っている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人の服用中の内服や副作用など全て把握しきれいでないの理解するようにしておく。拒薬時は申し送りしたり時間をおいて再度促し服薬を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活の延長が継続できるように趣味、家事、歌、地域との交流に参加し実施している。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域への参加、美容室へ行く、外出行事への参加		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事、美容室、地域行事時に本人のお小遣いにて好きな物を購入している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があれば電話行い、海外在住の家族ともパソコンを通じ交流を図っている。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室での環境整備(写真、季節感あるもの等)フロア内の装飾品の飾りつけを行っている。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個人を把握し無理のない仲間作りに努めている。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具、ベッド、仏壇などを持ち込み、居室の心地良さを提供している。		
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すり、シルバーカーが使用出来るバリアフリー。		